

# みどりのこえ

春号  
2011

長野県環境保全研究所

平成23年(2011年)3月29日発行

●飯綱庁舎 〒381-0075 長野市北郷 2054-120 TEL.026-239-1031 FAX.026-239-2929

●安茂里庁舎 〒380-0944 長野市安茂里米村 1978 TEL.026-227-0354 FAX.026-224-3415

URL: <http://www.pref.nagano.lg.jp/xseikan/khozen/> E-mail: [kanken-shizen@pref.nagano.lg.jp](mailto:kanken-shizen@pref.nagano.lg.jp)

No.42



IPCC 第二作業部会(WG2)執筆者(WG2第一回執筆者会合@つくば)

## 「温暖化は怖くない!? 適応策の実施に向けて」

文・写真 肱岡 靖明

2010年の夏(6月～8月)、日本は1898年以降の113年間で最も暑い夏となり、夏期(7月～9月)の全国における熱中症による救急搬送人員は53,843人と報告されました。長野県においても、2010年の夏は記録的な猛暑となり、暑さのみならず、局地的大雨や突風、雹による被害が多数報告されました。このような極端な気候が温暖化に起因するものかどうかを科学的に説明することはまだ難しい状況にありますが、長期的な気温変化は世界的に上昇傾向にあり、温暖化の進行とそれに伴う影響が懸念されています。

温暖化に対する対策には温室効果ガスの排出削減を行う緩和策と悪影響に備える適応策の2つがあります。緩和策の導入にあたっては、中長期的な目標も含めて広く議論され実行に移されつつありますが、適応策に関しては、科学的な研究や国・自治体における検討は始まったばかりです。しかしながら、日本では、長く防災や環境管理、食料生産、国民の健康の確保のための対策を推進しており、施策や技術は多くの実績があります。これらは温暖化への適応策として効果を発揮する可能性があります。

適応策の実施には、将来の気候変化予測を鑑みて、既存の施策や科学的知見、過去の経験やそれに基づく知恵を組み合わせることが肝要です。現在、国内外で適応策に関する研究が精力的に推進されています。国内では、大型の研究プロジェクトが2010年度より複数開始されています。国外では、Intergovernmental Panel on Climate Change (IPCC)の第四次評価報告書では一つの章でしか適応策について扱われていませんでしたが、第五次評価報告書では四つの章に拡大されました。

今後数十年間にわたって温暖化の進行が避けられない以上、適応策の導入は避けられません。しかしながら、温暖化は一気に進むわけでないため、あわてる必要はありません。備えが大事なのです。温暖化が進行すると、その悪影響は長期間に及び、気候安定化の効果が現れるにも長い時間を要します。そのため、将来の被害を可能な限り小さくし、後世に対策の負担を回さないようにするために、今から長期的な視点で適応策の検討・実施を考慮しておく必要があるのではないのでしょうか。

(ひじおか やすあき/独立行政法人 国立環境研究所)

社会環境システム研究領域 統合評価研究室 主任研究員

### Contents

【巻頭言】 温暖化は怖くない!? 適応策の実施に向けて	1	【こんなことやってるよ!】	
【特集】 信州発 みんなで考えよう 地球温暖化!		活動紹介 浅間山系ミヤマシロチョウの会	10
研究所は温暖化研究にどう取り組むか?	2-3	【こんな本みつけた!】『地球の洞察 多文化時代の環境哲学』	10
温暖化影響をとらえろ!～フィールド・リポート～	4-5	【フィールドノートから】飯綱高原でミンミンゼミ	11
温暖化の影響をどう予測するか?	6	【コラム】 COP10と地域のとりくみ～これからの10年～	11
市民参加で温暖化調査を!!～実践に向けて～	7	ご案内 平成23年度自然ふれあい講座	12
長野県の家庭のCO <sub>2</sub> 排出量はどのくらい?	8-9		